

JLA 短大・高専図書館部会報

部会長に就任にあたって



短期大学・高等専門学校図書館部会 部会長 久野 高志

部会員の皆様には日頃より当部会の活動にご協力を賜り誠にありがとうございます。

23年度より短期大学・高等専門学校図書館部会部会長に就任させていただきました久野高志（くの たかし）と申します。私は大学院生時に日本図書館協会準会員として入会をさせていただきましたが、入会后、部会活動には参加しないまま「図書館雑誌」を定期購読する会員でございました。数年前、当時の部会長 松尾昇治先生よりお声かけいただき、部会活動に参加させていただくようになりましたが、経験が浅く部会幹事の先生方にご指導をいただきながらの部会長でございますが、今後部会員の皆様により関心をもっていただける短期大学・高等専門学校図書館部会として活動を継続していけるよう努力する所存です。ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

はじめに、このたびの「令和6年能登半島地震」（以下、「能登半島地震」）により、犠牲となられた方々に心よりお悔やみ申し上げますとともに、被害に遭われた方々に、心よりお見舞い申し上げます。

短期大学・高等専門学校図書館部会では2023年11月9日（木）、東京臨海広域防災公園防災体験施設「そなエリア東京」の見学研修（ワークショップ）を実施し、地震対策の必要性を再認識したところではありましたが、能登半島地震では想定を遥かに超える規模の天災に直面することとなりました。石川、新潟、富山、福井各県の図書館では、サービス再開に向け関係者の皆様のご尽力されていることと推察いたします。当部会といたしましても一日も早い復

旧を祈念しております。

日本図書館協会では「図書館災害対策委員会」より、「被災図書館の方へ」（<https://www.jla.or.jp/committees/tabid/749/Default.aspx>）というメッセージを発出し、館内点検、資料保全、復旧作業等に関する情報発信を行うとともに、情報の収集に努めております。部会員の皆様方には当部会に対するご意見や情報等がございましたら「お問い合わせ先」までご連絡をお願いいたします。

最後に、当部会では部会活動を活発に展開するため、部会幹事体制の強化を当面の課題として考えております。部会活動にご協力いただける方は当部会までお気軽にお申し出くださいますようお願いいたします。さらには母集団となる日本図書館協会会員の増員（個人および団体）、準会員（個人の方で現在大学の学部第4年次までに相当する学年に在学する方）、賛助会員（個人、企業、団体等で協会の活動を賛助してくださる方）につきましてもご協力をお願いいたします。

短期大学・高等専門学校図書館部会（目的）

短期大学・高等専門学校図書館部会は、部会通則第4条第1項第3号に定める学校教育法第83条の規定に基づく短期大学の図書館のほか、同第115条の2の規定に基づく高等専門学校の図書館およびこれに準ずる図書館の発展向上をめざし、共通問題の研究調査およびその実施促進をはかり、併せて相互の連絡調整を行うことを目的とする。

短期大学・高等専門学校図書館部会について

新型コロナウイルス感染症は完全終息には至らず、再拡大の懸念を考慮し、2023年度の部会総会は、本部会規程第10条第5項の規定により、書面決議にて開催することにしました。このことを部会ホームページにて告知し、6月9日午後5時（必着）を締め切りとして「書面決議書」の提出をお願いしました。

なお、部会総会の成立要件を本部会規程第9条の定めにより、所属会員の10分の1以上の「書面決議書」の提出をもって成立するものとしました。4月30日現在の部会員数は166会員（団体・個人の合計）であり、部会総会の成立要件（部会規程第10条4項：所属部会員の10分の1以上の出席）は17会員以上となります。締め切り日までに「書面決議書」の提出件数が39件あり、部会総会は成立しました。

第1号議案から第5号議案までの書面決議の結果は以下の通りです。

第1号議案 短大・高専図書館部会事業報告および決算報告について（賛成39）

（1）活動報告

- ・2022年度の部会総会は、コロナ禍が継続していることを踏まえ、前年度に引き続き2022年6月に書面決議による方法で実施しました。その結果、「書面決議書」の提出が39件あり、部会総会は成立し、議案は原案のとおり承認されました。
- ・幹事会については、2022年6月24日より第1回幹事会をメール会議にて

実施し、幹事会の役員体制、事業計画、予算執行、ワークショップ等について、確認を行いました。11月10日第2回幹事会は対面により、同日のワークショップの最終確認等を行いました。2023年3月16日より第3回幹事会をメール会議で実施し、2023年度部会総会等の内容と準備について打ち合わせを行いました。

- ・ワークショップについては、2022年11月10日東京国立博物館資料館の見学研修を実施しました。当日の参加者は、短大高専図書館職員9名、幹事7名、合計16名でした。見学研修の報告を部会報60号に掲載した。
- ・部会報については、電子版（プリント版も含め）第60号を2023年3月に発行しました。なお、部会ホームページに電子版をアップしました。

（2）会計報告

《収入》

部会活動費	85,000円
合計	85,000円

《支出》

会議費	3,240円
通信運搬費	10,311円
印刷製本費	19,250円
雑費	320円
合計	33,121円

第2号議案 短大・高専図書館部会事業計画および予算について（賛成39）

（1）事業計画

- ・新型コロナウイルス感染症の完全終息

には至らず、再拡大の懸念を考慮し、本部会規程第10条第5項の定めにより、2023年度の部会総会は、「書面決議」により実施します。

- ・幹事会については、6月、10月および2023年3月の計3回を予定します。幹事会の開催については、対面会議を原則としつつ、コロナ禍の状況等によりメール会議等による開催も想定します。
- ・部会員との連絡をスムーズに行うため、部会構成員のメールアドレス調査を予定します。
- ・ワークショップについては、2023年11月9日、そなエリア東京の防災体験学習施設（東京都江東区）にて、見学研修を予定します。
- ・部会報の発行については、第61号（電子版）を2024年3月に発行を予定します。

（2）予算

《収入》

部会活動費	85,000 円
合計	85,000 円

《支出》

研修費	17,000 円
会議費	12,000 円
通信運搬費	26,000 円
印刷製本費	20,000 円
消耗品費	7,000 円
雑費	3,000 円
合計	85,000 円

第3号議案 短大・高専図書館部会幹事の選出について（賛成39）

＜公立短大＞

石原洋介 三重短期大学附属図書館
実務担当：本山幸穂

＜私立短大＞

久野高志 （作新学院大学女子短期大学部）
石田孝夫 （個人会員）
毛利和弘 （個人会員）
松尾昇治 （個人会員）
藤懸徳仁 （個人会員：亜細亜大学）

＜高専＞

近藤久直 （沼津工業高等専門学校）

第4号議案 短大・高専図書館部会図書館部会会長・副会長について（賛成39）

部会長 久野高志 （作新学院大学女子短期大学部）
副会長 石原洋介 （三重短期大学附属図書館）
副会長 近藤久直 （沼津工業高等専門学校）

第5号議案 短大・高専図書館部会推薦の代議員について（賛成39）

代議員（定数2名）

片野裕嗣 （埼玉東萌短期大学附属図書館）
宮崎泰宏 （鈴鹿工業高等専門学校図書館）

令和5年度 「短大・高専図書館部会ワークショップ」報告

令和5年11月9日（木）13:00～14:30から「東京臨海広域防災公園防災体験学習施設 そなエリア東京」（有料ガイド付き90分コース）にて令和5年度のワークショップが開催され、参加申し込み者は10名（幹事含む）であったものの当日は9名の参加者となった。

関東大震災から100年ということもあり、図書館では、巨大地震への対策に関心が高まっているのではないかと思います。実際に疑似体験することによって、さらなる防災意識を高めてほしいという狙いの企画であった。有料ガイド付きということで、多くの参加者を期待したが、申し込み者は予想外に少なく、結果的に少人数開催となった。

ツアーで最も印象に残ったのが二つあった。一つは、ビルのエレベーター内にて震度7の地震の揺れが起き、そのエレベーターから脱出するという経験をした後、ビルの外に出てみると震災後の街の惨状がリアルに再現されており、その中を参加者全員に配られたタブレット端末を手にし、例えば、被災を受けた床屋の前にあるQRコードを読み取ると床屋に居たことを前提に、本人が取るべき正しい行動への質問が出され、それに答えるというものであった。惨状の街中を歩きながら、様々なケースに応じて震災時の正しい行動を学ぶという方法は真剣さも伴い良い体験学習になった。

他の一つは、実際に地震体験機での震度7（関東大震災級）の体験をさせてもらったことである。体感することは、とても大切なことだと思っていたので、とても良い経験になった。

施設内には、体験施設以外にも様々な展示品があり、ガイドからの説明を受けながら、防災に関する知識を広めることができたのみならず防災意識を高めることができた。実際の非常時には、この場所に政府の防災指令センターのようなものが置かれるという。

なお、体験学習施設の見学終了後は、任意参加であるものの恒例の参加者を交えての情報交換会を、近場のお台場の海岸沿いにある「ヒルトンホテル」中の「カフェ・レストラン」にて5名の参加で開催することができた。情報交換後は、お台場の夕景や名物のネオンなどを楽しんだが、コロナ流行の初期の原因の一つとして騒がれた屋形船の灯りがほとんど消えていたことに驚かされた。

（ワークショップ担当 毛利和弘 記）



発行 日本図書館協会短大・高専図書館部会
代表者 久野 高志
発行日 2024年7月1日
〒104-0033
東京都中央区新川1-11-14
Tel 03-3523-0811
